



12月 

発行責任者
西川 晃二

【校長室より】

改めて「凡事徹底」を ～当たり前のことを一所懸命に取り組む～

学校生活では、一番長い期間でもあり、行事盛りだくさんの2学期が終了しました。と同時に平成24年の締めくくりの学期でもあります。先日の終業式では、この1年の総括と来るべき新年に向けての抱負をまとめるように生徒たちには話したところです。

とは言え高校生にとっての、特に3年生にとっての新春は3月であることは否めず、世間での正月気分を味わうなど夢のまた夢でもあります。受験生を持つ保護者の気の使い方も並大抵のものではないかと推察します。今は見守り、ひたすら、そしてそっと励ましていただきたいと思います。

何はともあれ生徒たちには「一念、岩をも通す」精神で受験に臨めと檄を飛ばしたところです。

さて、先日衛生看護科の公開授業がありました。授業の後半ではありましたが、私も参加させてもらいました。ちょうどビデオを使っただけの赤ちゃんの沐浴指導のシーンでした。赤ちゃんを洗いながら常に声をかけている指導者の姿を見ていて、自分は子供を入浴させるときどんなだったかを思い出したところです。特に意識して話しかけることをしてなかったのでは、と反省しきりでした。幼児期に親が常に子供とのスキンシップと声かけをすることがいかに大事であるかと改めて認識したところです。またその多寡がその後の子供の将来の姿を決めていくものではないかとまで思ってしまう。

最近の高校生は親とあまり会話しません。我が家の娘たち（高校2年、大学1年）を見てもあまり私と会話を交わそうとはしません。何でそうなのか。我が身を振り返ると、幼児期に家族団らんの時をあまり過ごしていませんでした。自分の忙しさに甘えた結果かなと今にして思うところです。

高校教員は生徒の教育に励むあまり家庭をあまり顧みない、もしくは顧みる余裕のない教員が多々います。全く紺屋の白袴、医者の不養生的な状況です。それで本当の教育ができるのか、と批判されそうですが、現状はそうなのです。本校の教員も朝早くから夜遅くまで、日曜も祭日もない勤務ぶりです。管理職として教員には家庭とのバランスをとるようには話していますが、なかなか浸透しません。かといって皆が朝8時出勤、夕方5時退勤では今の高校教育界では通用しないのも現実です。昔のサラリーマン川柳に「無理させて無理はするなと無理を言う」というものがありますが、全くこの川柳通りではないかと内心忸怩たるものがあるところです。

中国の古典籍に『小学』というものがあります。江戸期の国家の学「朱子学」と関係が深く、その説く内容は基本的な家庭教育として人々に浸透しました。

『小学』の一節を紹介します。

古の小学、人を教うるに、洒掃（さいそう）、應對、進退の節、親を愛し、長を敬し、師をたつとび、友に親しむの道を以てす。皆身を修め、家を齊（ととの）え、国を治め、天下を平らかにするの本と為す所以（ゆえん）なり

『小学』においては、まず人を教えるのに洒掃を始めとします。「洒掃」とは掃除を意味します。掃除が人間を創る一番の基本とするのです。

次の「應對」とは挨拶です。親が赤ん坊に毎朝「おはよう」と声をかけ続けると、成長するに従い「おはようございます」と挨拶を返してくれるようになるのです。これが應對の一番の基本であり、幼い頃に習慣化すれば生涯失われることはないというのです。

「進退」は立ったり座ったり、進んだり退いたりといった作法です。禅寺の玄関には「脚下照顧」の札がありますが、まず自分の脱いだ靴はちゃんと揃えることというのが、人間修養の第一歩だと説くわけです。

「洒掃」、「應對」、「進退」は習慣づけることが大切です。日々繰り返し実践することによって無意識のうち自然にできるようになって初めて習慣づけられたと言えます。

また、これらのことは当たり前のことです。その当たり前のことができない現実がいかに多いか。それ故、生徒たちも、また我々大人も改めて「凡事徹底」の大切さを胸に刻み実践していきたいものと思います。

2年生修学旅行（12月3日～7日）

12月3日（月）～7日（金）にかけて、修学旅行を実施しました。今回の修学旅行は、①スキー研修2日間（志賀高原）、②企業・大学訪問（東京周辺）、③都内班別自主研修の豪華3本立てでした。

スキー研修では、一面の銀世界の中、10名程度の班に分かれ、インストラクターの丁寧な指導を受けました。その指導のおかげか若者の勘の良さか、生徒たちの上達ぶりはずいぶんありました。2日目にはスイスイと並んで滑る五島高校の一行があちこちに見られ、にぎやかな歓声をグレンデに響かせていました。

企業・大学訪問では、東京近郊で活躍する五高の先輩方にお世話になり、職場や工場の見学、企業の方との懇談など貴重な機会を与えてもらいました。「企業が必要とする人材は、コミュニケーションがとれ、行動ができ、社会のルールや人との約束を守れる人物。」などといった生の声を聞くことができ、たいへん勉強になりました。多くの企業で昼食をごちそうになり、お土産までもらった生徒もいました。

都内班別自主研修では、上野動物園に行ったり、渋谷、原宿で買い物をしたり、班で自由に東京を回りました。人の多さや電車の路線、ホームの多さととまどった生徒も多くいたようですが、班で協力し、全部の班が約束の時間にホテルに戻ってきました。途中、怖い思いをした生徒もいましたが、全員無事に自主研修を終えることができました。

この修学旅行を通して、学年としてさらに団結し、集団の力を発揮できる学年になったのではないかと考えています。保護者の皆様、修学旅行のお世話をいただいた多くの方々へ感謝し、今後に生かしていきたいと思えます。



修学旅行の感想

牧野匡佑さん（2-1）

「故郷」という言葉を聞いて、人は何を思い浮かべるだろうか。美しい海や山、私はこれらの風景が思い浮かぶ。故郷である五島の風景だ。故郷は人それぞれで違う。あたり一面が白銀の世界の雪山を想像する人もいれば、高層ビル、電車、雑踏、このような大都会を想像する人もいるだろう。私はこの修学旅行を通して、故郷の大切さを感じた。まずはスキー研修。慣れないスキーウェアを着て、ゴーグル・ニット帽をつけ、ブーツとスキー板を履く。はじめは歩くのだけでも一苦労で、まして斜面を滑ることなんて出来ないのではと思っていた。案の定1日目は転んでばかりだったが、2日目になると滑れるようになった。そして、長野を離れるのが名残惜しく感じるまでになっていた。次に東京自主研修。まず何より人の多さに圧倒された。普段の生活では経験できないようなことをいくつも経験した。私はいつか、経験したこれらのことが日常だと思えるようになりたい。私は故郷五島が好きだ。しかし将来は都会に出て、様々なことを学びたいと思っている。故郷を大切にするためには、都会のことも含めたそれ以外の多くの物事を学び、知る必要があると考えるからだ。修学旅行はその第一歩だったのである。修学旅行も終わり、進路の意識もますます強まってくる。この旅行で学んだことを心に留めつつ、気持ちを新たにこれからの学校生活を頑張りたい。

宗 彩花さん（2-7）

スキーは、最初はコツをつかめず何度も転んでばかりでした。インストラクターさんに教えていただいたようにしようとしているのに、なかなかうまく滑れませんでした。みんなはできているのに、自分だけができず、悔しい思いもしました。リフトから降りて滑るときも遅れていくことが多く、嫌になりました。あざもたくさんできました。でも、練習を重ねると、滑ることも曲がることもできるようになりました。諦めないでよかった！！

企業訪問では、仕事をするときに重要なことや信頼関係を築くことの大切さを学びました。今でも故郷のために様々な働きかけをしておられるそうです。自主研修では様々なハプニングもありましたが、東京の『すごい』を体験できました。苦しかったり、大変なこともありましたが、おもしろかったです。

修学旅行に関わって下さった方々のおかげで安全に旅行ができました。

皆様のおかげで！ 剣道部女子

剣道部女子が県新人戦団体2位という成績を残すことができ、2月9日10日に沖縄で行われる九州選抜大会への出場権を得ることができました。日頃から多くの保護者、地域の方に応援していただき、その気持ちをプラスにして試合に挑むことができました。

来年度の九州選抜大会は五島市で開催される予定になっています。また、年末年始にも多くの試合があるので、この結果に満足することなく、さらに研鑽をふまえて向上していきたいと思えます。

今後の成長のためには、心の成長が欠かせません。心が成長すれば、技術は成長します。気持ちの良い挨拶。靴が乱れていたらそろえる。掃除は見えない部分まで手を抜かない。このように何事にも手を抜かないということは非常に大切なことです。稽古を一生懸命やるのは当たり前。勉強も日常生活も手を抜いてはいけません。何事にも視野を広く持つことで、相手の心や次の展開を読む剣道にも生きてくるのです。こんな剣道部員、五高生が増えることを期待しています。



九州高校放送コンテストに参加して 放送部部長 垣深 真也子さん(2-5)

私たち放送部は、12月12・13・14日に行われた、第34回九州高校放送コンテスト鹿児島大会に参加しました。ラジオ番組部門に、今年度の五高祭テーマソングを題材とした「あこうのように」という作品を出品し、優良賞(ベスト10)をいただきました。この作品は、私たちの力だけではなく、テーマソング作りに携わった人や、取材に答えていただいた人など、多くの方々の協力があって作り上げた作品だと思っています。関わってくださった皆さんに、感謝します。本当にありがとうございました。

今回、九州大会とそれに伴う研修会に参加して、番組の作り方や取材の仕方など、技術面で学んだことも多かったですが、最も印象に残ったことは、「伝える」という気持ちを持つことの大切さを改めて学んだことです。上位に上がった作品に共通することは、やはり伝えたいテーマが製作者側に明確にあって長期の取材を行いそれを表現していたことでした。正直、私たちは最初番組を作るときには「大会があるから、番組を作らなくてはいけない」という気持ちで制作を行っていました。しかし制作しているうちに、五島高校ではこのような素晴らしい活動を行っているということを知り、多くの人に「伝えたい」と思うようになりました。九州大会の準決勝で、他の県から出ていた作品を聞いた時は、どの作品もレベルが高くて、自分たちが決勝に上がるかとても不安でした。番組制作にける気持ちも、他の学校の人たちと比べると、まだまだ自分たちは甘いなと思えました。でも、他校の先生から「作品を聞いて、1度しかない出来事を伝えたい、このチャンスを逃したくない」という気持ちが伝わってきた」と言われ、うれしく感じました。次の大会では、読みも番組も「伝える」ということを意識して頑張っていきたいと思えます。

『私の発することばで、私の作った番組で、その思いが、あなたの心に伝わりますように…』

九州高等学校新人柔道大会を終えて 柔道部主将 祝 貴之さん(2-4)

私は、今大会の-81kg級に出場し、準優勝という結果を残すことができました。この結果は、私を今まで支えてくれた両親やご指導くださった先生方のおかげだと思います。

本当に感謝しております。しかし、私はこの結果を素直に喜ぶことができませんでした。なぜなら、決勝戦で負けてしまい、とても悔しい思いをしたからです。私は、人一倍負けず嫌いです。特に柔道で負けることは本当に嫌いです。それに見合う練習をしているのかというと、正直まだまだ練習に対する意識が少し低い気がします。これからは、この悔しい思いをしないためにも、もっと自主的な練習の量と質を高めていきたいと思えます。

私の一番の目標は、団体で2013年8月に福岡県で開催される北部九州インターハイに出場することです。そして、このメンバーで試合をするのは、高校時代で最後だと思うので、最高の結果を残したいと思っています。もちろん個人戦に出場し、同インターハイで上位入賞することも目標にしています。

今の柔道部には、生活面でも改善すべき点がたくさんあります。まずは、そこを改善し、他の部活動の模範となるようにしていきたいと思えます。そして部員全員で一致団結して、感謝の気持ちを忘れず、目標を達成します。これからいろいろな面でお世話になると思いますが、応援よろしくお願ひします。

学力向上に関する研修会について(12月21日)

12月21日(金)、終業式後、「しま地区進学校における生徒の学力充実の推進のための取組を検証・評価し、来年度以降の取組に生かす」という目的で、学力向上に関する職員研修会を実施いたしました。研修会は、学力向上委員会・教科・学年の代表が発表を行いました。

学力向上委員会の取組では、導入期指導・成績評価・相互授業参観・授業評価について発表されました。導入期指導では、新入生に対して従来以上に手厚く指導する案が、成績評価では、生徒の努力が成績評価により大きく反映させる素案が提示されました。

教科の取組では、五教科(国語・地歴公民・数学・理科・英語)が発表を行いました。教科研修会・学校訪問・添削指導など、各教科の主な取組を発表しました。

学年の取組では、各学年がこれまでの取組とその評価、今後の課題等を発表しました。

今回の研修を今後の指導に役立てていきたいと思えます。

「時間の経過」

第1学年主任 山口 一守

2月8日（金）にマラソン大会が実施されます。本番に向けて、体育の授業では現在持久走が行われています。私も15分間走の時などに、生徒と一緒に走ることがあります。終盤のきつい時に、「こんなにも1分が経過するのが遅いのか。」と何度も私は思っています。

しかし、遊んでいる時、TVを見ている時などは、あっという間に時間は過ぎていきます。時計を見た時に「えっ、もうこんな時間か。」と感じてしまいます。

さらに、生徒のみんなと一緒に走りながら、「短い時間でもできることは、もっとあるはずだ。」と私は強く感じています。「今まで、いったいどれだけの時間を無駄に過ごしてきたのだろうか。」と荒い呼吸をしながら、自問自答をすることもあります。1分という短い時間でもたくさんのパワーを使って、前進することができます。

これから、冬休みを迎えてそのあとは3学期になります。残り少ない平成24年度の期間になりますが、考え方や取り組み方しだいでは、生徒のみんなはもっと学習や部活動の力を伸ばすことができるのではないのでしょうか。私自身も、一日の生活の中で無駄に過ごしている時間はないか見つめ直し、分単位の時間でもいいから、腰を上げて行動していきます。これから、寒くなるとどうしてもコタツや暖かい布団からは抜け出せなくなりますが、モゾモゾとしている間にも出来ることは、どうやらたくさんあるようです。これから、年末年始を迎えます。テレビを見て笑っている間に、目標達成に向け時間を有効に使っているライバルがいることを忘れないようにしましょう。

「受験の敵、携帯電話とどう向き合うか」

第2学年主任 村田 誠

高校生活の中で最大の行事の一つである修学旅行が終わり、2年生の3学期を迎えようとしています。高校総体まで、いよいよあと半年を切り、部活に勉強に忙しい日々を送っていると思います。

高校では「2年生3学期は、3年生0学期だ。」と、最近、よく言われるようになりました。3年生になって受験スタートでは遅い。2年生のうちに準備をしておこうということです。実際、センター試験は1月中旬です。3年生になってからでは9ヶ月しかありません。ましてや高校総体が終わってからは7ヶ月です。2年生になってからもう9ヶ月が過ぎようとしていることを考えると、あっという間にやってきます。

先日、普通科の生徒に「受験生宣言！」という冊子を配布しました。非常に分かりやすく、かつ、モチベーションを駆り立てられる内容になっています。ちゃんと読みましたか？ その中に、「受験の敵、携帯電話とどう向き合うか」という内容がありました。その中には「机の上に置くのは絶対にNG。」「携帯を持っている人は集団で解約した。受験は団体戦だから協力が必要。」などという体験談が紹介されていました。五島高校でも「五高生携帯マナー」として「夜9時以降に携帯電話を使用しない。」ということをお呼びかけています。勉強中にメールの着信があったら勉強を中断して返信をしなければならなくなり、友達に迷惑をかけてしまいます。友達のために、「五高生携帯マナー」を守ってください。受験は団体戦です。修学旅行で見た団結力を発揮してください。あと1年、携帯を扱う時間は必要ありません。

保護者の皆様、お子様の五島高校での生活もあと1年あまりとなりました。生徒全員の進路実現に向け、職員一同、精一杯支援して参りますので、新年もよろしく申し上げます。よいお年をお迎えください。



私たち五島高校生は、21時以降携帯電話の使用を控えます！

※家庭で携帯電話の使い方の約束事を決めて下さい。
※以下の言葉を唱えると、今すぐ勉強したくなります(*^_^*)
「やればできる！やればできる！やればできる！」

「来るべき試験に向けて」

第3学年主任 楠本 亨

センター試験まで30日、准看資格試験まで60日を切りました。今君たちは何を考えてこれからどう切り開こうと思っていますか？サッカーJリーグに所属し、今年フットサルの日本代表になった、三浦知良選手は代表に選ばれた直後のインタビューで、「人生は選択の連続なんだ。」と言っています。三浦選手自身も15歳の時に高校を中退して、単身ブラジルに渡るといった大きな選択をし、今の活躍があります。人は誰でもいろんな選択をしながら人生を歩んでいきます。大学受験も人生の中での大きな選択のひとつです。本番が刻一刻迫ってきています。今は、「第1志望に絶対合格するんだ！」という強い気持ちでひたすら学習に励みましょう。3年生の先生方も君達の進路実現のため、春を笑顔で迎えるためにとことんやります。今が一番キツイ時かもしれませんが、ここをみんな乗り越えていこう。頑張れ3年生！

保護者の皆様には、日頃よりご理解をいただき本当にありがとうございます。ご家庭でもこれから進路に関して、難しい選択を迫られることがあるかもしれませんが、担任の先生方を信頼して決定していただければと存じます。

来年、よい年になりますよう今後もご支援をよろしく申し上げます。